生涯学習通信

増田誠美術館

ふるさと会館2階

増田誠美術館は、芸術・文化の向上に、永年貢献されました増田誠画伯の業績を称え、その作品や資料の収集並びに管理と公開を基本に、市民の生涯学習の拠点として、活用していただくことを目的に、平成四年六月二十四日に開館しました。

画伯は、大正九年五月二十四日に旧谷村町下谷に生まれ、谷村尋常高等小学校、旧制都留中学校（現都留高校）を卒業。その後兵役をすませ、北海道釧路市に移り、光工芸社を設立し、看板業を営むかたわら、帝展画家上野山清貢先生に師事され、また、一線美術会に所属し、数々の賞を受賞されました。昭和三十二年満三十七歳で単身渡仏され、以後三十二年間パリを拠点として、意欲的な創作を行い、人間味溢れる独特の画風を確立されました。この間フランス国内の様々な賞を受賞され、ル・サロン無鑑査、サロン・ドートンヌ会員など国際的画家として不動の地位を確立されました。また、在仏の日本人画家の世話人として〝パリの村長さん〟と慕われる一面もありました。

国内展で代表的なものは、昭和四十四年から通算十五回開催された小田急百貨店での個展です。

画伯の意欲的な創作活動は、平成元年四月九日六十八歳で亡くなられる直前まで描き続けられました、「ふるさと」の作品をもって終了されました。都留市名誉市民の称号を授与され、記念碑は美術館の中からも見ることができます。

画伯の作品は、油彩画七十一点・版画七十二点あり、渡仏前後の初期の作品から、在仏三十二年間の作品、亡くなられる直前の「ふるさと」の作品まで、その制作年代は幅広く、特に代表作品を収蔵しています。

作品の特徴としては、独り人物画・パリ・オンフルール・ヴェニス等の水の描写を基本とする風景画・ギリシア神話・旧約聖書など、得意とされるモチーフはたくさんありますが、特に水の描写は素晴らしく〝水のマスダ〟と評され、パリ画壇を始めとして高い評価を得ています。

開館以来、画伯の特別展を六回（油彩画三回・版画家三回）、さらに「増田誠大賞」を制定し、画伯がこよなく愛した『ふるさと』の自然等を描いた作品を、広く市民より公募した作品の中から、入賞作品展を開催しています。

平成六年からは「増田誠ゆかりの作品展」を年二回開催し、その間には、画伯の縁で釧路市と友好都市の提携をし、相互に画伯の特別展を、また、富士急行㈱で所蔵されている様々な作家が描いた「富士山展」も開催してきました。

特別展の開催にあたっては、アートボランティア会員（現在登録会員数六十五名）のご協力をいただいています。生涯学習の一つの施設として、美術館活動の輪を広げて行きたいと思いますので、興味のある方は、お問い合わせください。

市民共通の財産として、「増田誠美術館」に親しんでいただくためにも、お気軽にお出かけください。

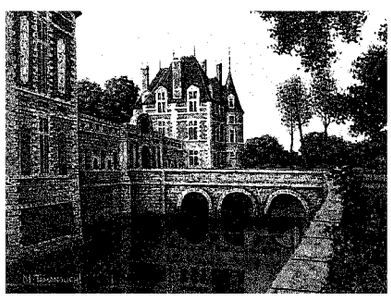
☆開館時間
午前9時30分～午後4時30分

☆休館日
月曜日・祝祭日の翌日
年末年始
特別展前後に臨時休館

☆連絡先
生涯学習推進会議
生涯学習普及・啓発部会
☎(45)4111

第四回増田誠ゆかりの作家展

玉之内満雄展



玉之内画伯は、昭和四年埼玉県生まれ。昭和二十一年から絵を学び始め、寺内萬次郎・尾嶋薫に師事し、個展を通算三十四回開催するという意欲的な制作活動を行い、現在は旺玄会常任委員・日本美術家連盟会員となり、国際的画家として活躍されています。

画伯は、古きよき時代の面影をとどめるフランスの町並みや、そこに生きる人々の哀歓を、増田画伯とともに肌で感じ、同時代をともに生きて来られた作家です。

作家独自の光と色彩の遠近法、そして、重厚で手抜きのない細密な描写による、歴史の舞台である古城や教会などの風景画、向日葵などの静物画を得意とされ、特に古城や教会などは、歴史的な建築物の貴重な資料として重要視されています。

意欲溢れる一〇〇号から一二〇号の大作を含め、情熱的で個性的な作品をご観賞ください。

期間　10月21日～11月16日
時間　午前9時30分～午後4時30分
休館　月曜日・祝祭日の翌日
会場　増田誠美術館（ふるさと会館2階）

◎玉之内画伯講演会
日時　11月10日　午後2時～3時30分
会場　文化会館3階小ホール

第2回 都留市写真コンテスト作品展

「ふるさとの四季」をテーマとした第2回都留市写真コンテストの応募作品展を開催します。

審査員浅井慎平氏によって、選ばれた浅井慎平賞1点、優秀賞2点、入選10点、佳作20点、の他、全作品を展示します。

会　場　ふるさと会館1階展示ホール
期　間　10月14日～22日
時　間　午前9時30分～午後4時30分
休館日　月曜日・祝祭日の翌日
問合先　社会教育課文化振興係